

Different Hormonal Expression Patterns Between Primary Pancreatic Neuroendocrine Tumors and Metastatic Sites

木村, 英世

<https://hdl.handle.net/2324/1654720>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



氏名：木村 英世

論文名：Different Hormonal Expression Patterns between Primary Pancreatic Neuroendocrine Tumors and Metastatic Sites
(膵神経内分泌腫瘍におけるホルモン発現様式は原発巣・転移巣間で異なる)

区分：甲

論文内容の要旨

膵神経内分泌腫瘍 (pancreatic neuroendocrine tumors, PNETs) において、複数のホルモンを産生しうるという腫瘍の不均質性が知られている。そこで、ホルモン発現の観点から PNET のもつ不均質性を評価することを目的とした。4種類の代表的なホルモンである、ガストリンおよびインスリン、グルカゴン、ソマトスタチンの発現を原発巣、転移巣それぞれにおいて免疫組織化学染色を用いて検討した。対象はリンパ節転移を認めた PNET20 例で、6 例はガストリノーマ、1 例はインスリノーマ、1 例はグルカゴノーマ、12 例は非機能性 PNET であった。20 例中 7 例では同時性肝転移を認め、肝転移巣も対象とした。7 例中 2 例はガストリノーマ、5 例は非機能性 PNET であった。20 例中 6 例に複数のホルモンの発現を認め(30%)、非機能性 PNET12 例中 9 例で少なくとも 1 つのホルモンの発現が認められた。原発巣・リンパ節転移巣間、原発巣・肝転移巣間でのホルモン発現陽性一致率はそれぞれ 50%, 11% であった。3 例では原発巣で発現を認めないホルモンが、転移巣でのみ認められた。結論として、ホルモン発現様式は原発巣・転移巣間でしばしば異なることが示唆された。